

「こどもが描く学校図書館づくり」支援事業の進捗状況について

令和8年1月30日
学校教育課

1 事業目的

本事業は、学校図書館を「読書センター」「学習・情報センター」として機能させ、子どもたちの主体的な学びを支える環境整備を推進することを目的とする。特に、以下の3点を重点に、3年間で市内全小中学校へ事業を展開する。

- ・子どもの意見を尊重した図書館づくり
- ・学校・保護者・地域が協働する体制の構築
- ・図書館教育の質的向上（読書活動・調べ学習・情報活用能力の育成）

2 事業進捗状況（令和7年度）

令和7年度は、市内6校を対象に事業を開始し、以下の取組を進めている。

(1) プロジェクトチームの設置

全実施校において、児童・生徒、教職員、保護者、地域住民、公共図書館司書等で構成するプロジェクトチームを組織し、学校ごとに会議を複数回開催して、学校図書館の課題整理や改善方針、何よりも子どもの思いや願いを中心に据えての検討を実施した。

(2) 子どもの意見反映の取組

- ・全校生対象のアンケートや学級会での話し合い活動を実施
- ・代表児童・生徒がプロジェクト会議に参加する体制を整備
- ・図書館のレイアウト改善案や蔵書の希望リストなど、多数の具体的意見あり

(3) 環境整備

- ・くつろぎスペースの設置、掲示コーナーの新設、書架配置の見直し など
- ・蔵書点検、選書作業、最新情報コーナーの試行
- ・一部学校では地域開放の方法について検討を開始

(4) 特徴的な取組

- ・新井小：子どもの希望を基にした「ワクワク図書館」構想を策定
- ・上久下小：「明るく・楽しく・くつろげる図書室」をテーマに空間改善を検討
- ・北小：児童会が中心となり、意見集約と会議参加を実施
- ・春日部小：「学校全体が図書館」構想など3つの構想を提示
- ・船城小：多目的で安心できる「ふなキッズふれあい図書室」を構想
- ・春日中：生徒会図書委員会が中心となり「図書館大改造プロジェクト」を推進

3 成果と課題（現時点）

【成果】

- ・子どもの意見を反映した図書館づくりが各校で具体化している
- ・学校と保護者や地域の協働体制が本事業を通して進みつつある
- ・図書館教育への関心が高まり、教職員の意識変容が見られる
- ・図書館を「行ってみたい」「調べてみたい」と感じる空間づくりが進行している
- ・生徒会や児童会が主体的に関わる意識が高まっている（自治的諸活動の活性化）

【課題】

- ・プロジェクト会議の運営負担が教職員に偏りやすい

- ・物品納入時期が年度後半に集中し、整備作業がタイトになりやすい

4 次年度（令和8年度）以降の予定

- ・令和8年度は新たに9校で事業実施予定。令和9年度に残り10校も実施。3年間で市内全小中学校で取組完了。
- ・令和7年度実施校の成果を踏まえ、「子どもの意見反映の手法の標準化」や「地域開放のモデル化」など、より体系的な取組へ発展させる。
- ・全校実施後は、学校図書館の活用状況を継続的に検証する。あわせて学校図書サポーター及び学校司書の配置について検討する。